

## 北欧では、子どもに絵本で 「性交」を自然に教えている

「性を語る会」代表 北沢杏子

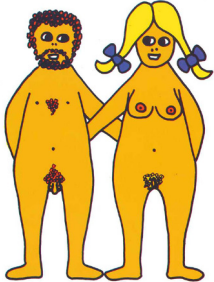
■性交 (Samleje) の頁があるデンマークの絵本『あかちゃん  
はこうしてできる』<sup>※</sup>を、親子一緒に読むといいですね！

きたぞわきよつこ／やく  
P・H・クヌートセン／さく



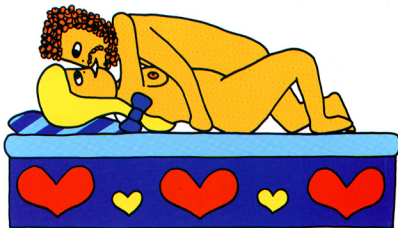
私はいま、学生ゼミの導入部で、この絵本のプリントを配布し、一人が一区切りずつ、順に朗読してもらっています。小児科の若い患者さんから、自分のお子さんから「どうしてわたしは生まれたの?」と聞かれたら、にっこりした表情で、明るい声で、朗読できるように！

はだかになったおとうさんとおかあさん。  
おとうさんはおかあさんがだいすき。  
おかあさんも おとうさんがだいすきだ。



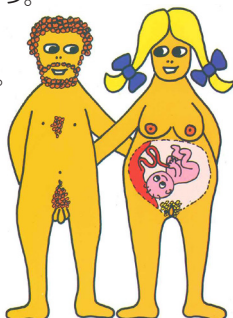
ふたりは、いま、  
「あかちゃんがほしい」と  
おもっている。

ふたりは、よこになって、おとうさんのおちんちんを、おかあさんのちつのなかに入れる。さあ、これで、あかちゃんをつくるじゅんびができた。これを、せいこう (Samleje) というんだよ。

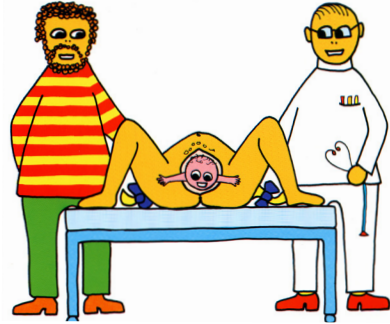


せいしとらんしが、であってから、9かげつ。あかちゃんは、とてもおおきくなって、「はやく、そとにでたいな」とおもっている。

そとにでやすいように、あかちゃんは、しきゅうのなかで、でんぐりがえりをする。



あかちゃんは、ほら！おかあさんのちつから、こんなふうにして、でてくる。めのくりくりした、かわいいあかちゃんだね。



もし、なにかわからないことがあったら、おとうさんかおかあさんにきいてごらん。

ほかにだれか、すきなおとながいたら、そのひとに、きいてもいいんだよ。



### ■「あかちゃんはこうしてできる！」との出会い

1984年、私はデンマークの首都コペンハーゲン市郊外にある出版社 BORGEN をたずねました。そして、35カ国語に訳され、各国のさまざまな文字で書かれたこの絵本「あかちゃんはこうしてできる！」に出会ったのです。

この絵本の前書きには、こう書かれていました。「あかちゃんには、おとうさんとおかあさんがいることは、知っているね。おとうさんとおかあさんは、ちからをあわせて、あかちゃんをつくるんだ。

あかちゃんがおおきくなったとき、ふたりは、いっしょにすんでいないこともある。でも、さいしょにあかちゃんをつくったのは、おとうさんとおかあさんなんだよ」。

クヌートセンのこの優しさ——ひとり親（シングルママ/シングルパパ）の子どもたちや、さまざまな事情があって施設で暮らしている幼い子どもたちに配慮した文です。私がこの絵本を自社（アーニ出版）から出そうと決めたのは、幼い読者への配慮に心引かれたからでした。

絵本の最後のページにも、同じ配慮が見られますね。「ほかにだれか、すきなおとながいたら、そのひとに、きいてもいいんだよ」……と。こうした作者の子どもの人権への配慮を考えながら、再読してみましよう。朗読の時も、その気持ちをこめて……。（北沢杏子）

※ 1971年、デンマーク・オーデンセ市、ホルゲン出版社初版。以降、世界35カ国で翻訳・出版された大人気の絵本。1982年、アーニ出版から出版。現在、残念ながら絶版。